

グリーンスクール表彰

1 表彰の目的

環境教育の一層の推進を図るため、環境保全活動など実践的環境教育を積極的に推進する活動において、特色ある優れた実践を行っている学校をグリーンスクールとして表彰することにより、環境への意識の高揚を図ることを目的としている。

2 表彰の部門

学校、地域環境を活用し、総合的に体験活動や学習に取り組み、環境教育に成果をあげている学校であること。

【環境保全部門】

森林減少、絶滅危惧動植物の増加など地球環境の持続性に関する危機感が国際的に高まっている中、地域の希少生物やその生息地域等の保護活動に学校をあげて長期的に取り組むなど、自然保護活動に成果をあげている学校

【資源循環部門】

再生利用及び再利用による廃棄物の削減はSDGsでも示され、国際的に取り組まれている中、身近な生活の中でも、リサイクルやごみ問題など環境問題についての学習に積極的に取り組み、児童生徒の環境に対する意識の高揚に成果をあげている学校



グリーンスクールフラッグ

□ 表彰校一覧

(1) 令和3年度グリーンスクール表彰校 9校

【環境保全部門】

[小学校 5校] 神戸市立浜山小学校 明石市立江井島小学校
たつの市立新宮小学校 丹波篠山市立多紀小学校
洲本市立洲本第二小学校

[特別支援学校 1校] 兵庫県立播磨特別支援学校

【資源循環部門】

[小学校 1校] 南あわじ市立八木小学校
[中学校 1校] 神戸市立岩岡中学校
[高等学校 1校] 兵庫県立神戸商業高等学校

(2) 令和3年度グリーンスクール奨励賞表彰校 1校

[中学校 1校] 赤穂市立坂越中学校

□ 令和3年度グリーンスクール表彰校の取組（9校）

【環境保全部門】

(1) 神戸市立浜山（はまやま）小学校

『兵庫運河と茅渚（ちぬ）の海から学ぶ命の学習』

地元の漁協や関係機関で組織する兵庫運河を再生するプロジェクトの方々と共に、運河に住む生き物の調査を行い、地元の宝である兵庫運河と茅渚の海を守り育てる活動を行っている。兵庫漁協や水辺ネットワーク等、運河に長年関わりのある方々に教えて頂きながら、「浜っ子きらきらビーチ」を利用して春と秋でのアサリの成長を調べたり、令和2年に完成した「あつまれ生き物の浜」を活用し、干潟のゼロベースでの生き物調査を行ったりした。地域の方々と一緒に活動することで、地域の方々の様々な思いを感じるとともに、直接生き物と関わることで、身近な生き物に興味をもち、命の大切さについての理解がさらに深まっている。



(2) 明石市立江井島（えいがしま）小学校

『島っ子！わたしたちは海レンジャー～知る・感じる・守り継ぐ～』

1学期は校区探検を通じて、自然環境を目で見て、知る活動を行い、2学期には江井ヶ島の海の良さをさらに実感するために、地引網漁や干しダコ作り体験をしたり、たこ飯や塩焼きにして海の幸を味わったりする活動を、3学期には海を守り、未来に残していくために、海岸清掃活動を行っている。学習のまとめとして1年間で学んだ海のことを伝えるポスターや新聞、紙芝居、調査研究発表などを作成し、江井島まちづくり協議会の協力のもと、江井島小コミセンに展示したり、こうした活動を学校ホームページで公開したりしている。江井ヶ島の海の良さや美しさ、さらに、タコをはじめとした地域の海の生き物を守っていく態度が育まれている。



(3) たつの市立新宮（しんぐう）小学校

『私たちの「SDGs」大作戦～ひとと自然の共生、未来まで～』

国指定新宮宮内遺跡を活用した歴史及び環境学習を、全学年の教育課程に位置付けながら、直接体験を軸にした探究的な学習として展開している。特に、校舎敷地内にある「いこいの広場」は、「ひとと自然が共生できる場」として授業はもちろん児童会活動での「SDGs」大作戦でも有効利用される場である。この場所は、現在の6年生が5歳児の時に、「ひとと自然が共生できる『いこいの広場』（平成27年度の6年生が総合的な学習の時間に整備済）」として完成した。その際に、「今後この広場を引き継いでほしい」と招待され、さらに、入学後から地域の自然や歴史とふれあってきた学びが「SDGs」への意識を高めており、その姿に、下級生もいきいきと応える様子が見られている。



(4) 丹波篠山市立多紀（たき）小学校

『「学校ヒーローズ」を決定し、すばらしい多紀地区の環境を次世代につなげよう！』

地域に生息する生き物から「学校ヒーローズ」を決定し、「学校ヒーローズ」を環境保全のシンボルとすることで、多紀地区の環境を守っていく活動を行っている。児童だけでなく地域の方にも愛される「学校ヒーローズ」を決定するという大きな目標を持ち、川の調査や地域の方への聞き取り、アンケート調査に取り組み、保護者・地域の方にも関わっていただいている。地域の川の調査を通して、絶滅危惧種に指定されている生物がたくさん生息していることを知り、校区のすばらしさを実感し、この環境を次世代に残していきたいという熱い思いが育まれている。



(5) 洲本市立洲本第二（すもとだいに）小学校

『見つけよう大切な命！ 広げよう世界！洲二っ子ふるさとたんけん隊』

心と体で「いのち」を感じる自然体験活動を通して環境保全の意識を高め、主体的にふるさとを愛する心を育む活動として、①大浜海岸に生息する生き物を知る体験②三熊山に生息する植物を知る体験③絶滅危惧種「セトウチサンショウウオ」の生態系学習④地域の方との花植え交流⑤自然を守る募金活動の実施を行っている。自然と触れ合うことで動植物への思いやりが芽生え、それが友だちへの思いやりにつながり、地域の方との豊かな人間関係づくりに広がっていった。海や川、陸で生きる生物や植物を守るためにゴミ問題や生活排水などにも考えを広げる態度が育まれている。



(6) 県立播磨（はりま）特別支援学校

『ふるさと「たつの市」の自然環境を学び・育てる活動』

里山整備で伐採された樹木を使ってシイタケの栽培や、遊歩道整備では、木材の加工技術を活かした看板の製作・設置、さらに、赤トンボ保護のため自然環境を守る目的で草刈りなどの整備を行っている。自分たちが製作した看板が自然歩道を利用するハイカーたちに役立つことを知り、地域の自然環境に目を向ける意識が高まり、専門家からの助言により地域の自然環境についての知識を深めることで、地域資源を利用した循環の大切さや自然の恵みを考える機会となった。授業での取組を地域活動につなげ、自分たちで製作したものや、栽培したものが活用されることで自己有用感を醸成し、地域住民の一員として環境を守る責任感ある態度が育まれている。



【資源循環部門】

(1) 南あわじ市立八木（やぎ）小学校

『何これ？プロジェクト ～無関心だったけど、無関係ではいられなかった～』

フィールドワークや、調べ学習の中で出会った人々の想い等をアート作品にして発信する活動を行っている。自分で拾ったプラスチックゴミでアート作品を作るだけでなく「多くの人に考えてもらいたい」という想いや「メディアで取り上げてもらいたい」という想いなど、子どもの想いを中心とした課題解決プロジェクト活動である。作品づくりに対して専門家からのアドバイスや、仲間からの問いかけにより、地域（地球）環境に対する課題認識や、「自分はどうか」といった自己認識の高まりが見られ、地域環境を自分の問題としてとらえるとともに、地域の一員として課題を解決していくとする態度が育まれている。



(2) 神戸市立岩岡（いわおか）中学校

『ふるさとへの想い ～保護者、地域とともに環境教育～』

50年以上前から続いている、地域をあげての再生資源回収の取組を行っており、その内容は、生徒たちが朝から地域に出かけて、古新聞や古着、カンなどを地域の方や保護者の方と協力して集め、グラウンドに置かれたコンテナに生徒が協力して、満杯になるまで取り組む地域・保護者・生徒が一体となった環境教育である。また、校区内の放置竹林の環境保全も目的に、生徒・職員・保護者の100人以上で竹を伐採し、学校まで運び、組立て、年初めの会として左義長を行ったり、「残したい岩岡の風景」を写真に撮り、文化祭や地域の敬老会で発表する取組も行っている。このような取組を通して、故郷を大切にしたいという思いや環境に対する意識が育まれている。



(3) 県立神戸商業（こうべしょうぎょう）高等学校

『海洋プラスチックごみ削減に向けた実践活動と啓発活動』

学校を挙げて、プラスチックごみの問題に取り組むことで、意識の高い商業人を育てることを目標としている。今年度、神戸市と環境連携協定を結び環境学習や啓発活動の取組を強化し、民間ともESGに関するイベントでの連携を進めている。海岸清掃（ビーチクリーンアップ）を実施しており、生徒会、理科学研究部が積極的に参加している。生徒会新聞でもSDGsおよび海洋ごみに関する記事を掲載し、校内での資源ごみ回収強化やエコバッグ利用の推進を図っている。継続した取組により、当初は部活動に限られていた活動が徐々に拡がり、環境に対する意識が高まっている。



□ 令和3年度グリーンスクール奨励賞表彰校の取組（1校）

【資源循環部門】

赤穂市立坂越（さこし）中学校

「未来へ残そう！ 歴史輝く"坂越の海"！」

7月の第1土曜日を基準日として、中学生のボランティア参加を募り、地域の方とともに生島を含む坂越の海岸清掃を行っており、SDGs14「海の豊かさを守ろう」の中のターゲット1「海洋汚染を防止」についての取組として位置付けている。地域と学校の連携で始まった本活動は、今年で20年目を迎え、保護者や地域の方々の参加も増え、坂越地区まちづくり協議会との連携の下、地域に根ざした活動であり、社会科や家庭科の授業でもSDGsについてふれ、生島・坂越湾岸清掃活動についての意義について理解を深めている。地域の自然環境を美しくすることにより、地域に誇りを持ち、自然を愛し、地域の歴史・文化を大切にする心情を育んでいる。

